

ロシア情勢と日露関係

2014年10月30日
外務省欧州局参事官
武藤 顕

目次

I 日露を取り巻く国際情勢

- 1 ウクライナ情勢 . . . 4 頁
- 2 ロシアの安全保障観 . . . 6 頁
- 3 各国の対露措置 . . . 7 頁
- 4 ロシアとの対話・関与 . . . 10 頁

II 二国間関係

- 1 日露政治対話 . . . 14 頁
- 2 ロシアの貿易額 . . . 15 頁
- 3 ロシアのガス輸出 . . . 17 頁
- 4 ロシアの対日・対中貿易額推移 . . . 18 頁

1 日露を取り巻く国際環境 (ウクライナ情勢など)

ウクライナ問題



最近のウクライナ東部情勢(10月27日)

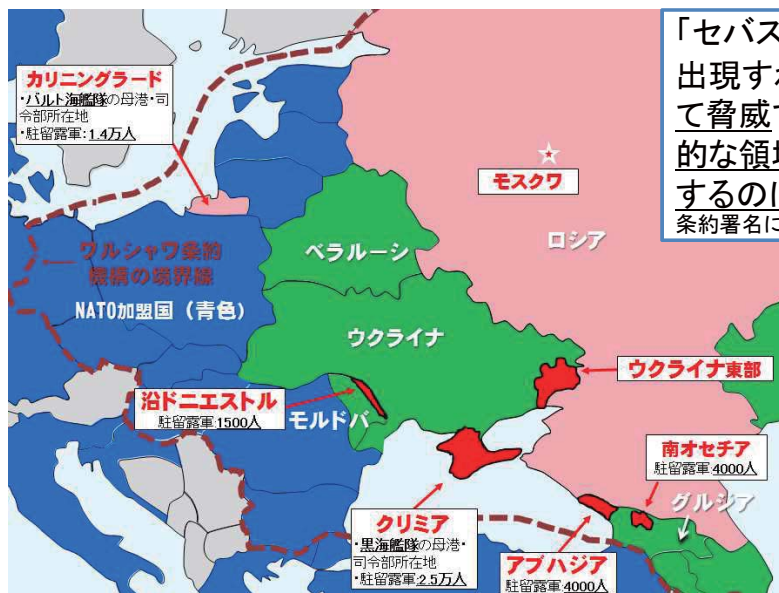
- ◆9月5日, 停戦を含む12項目からなるミンスク議定書に署名 (OSCE, ウクライナ, ロシア, 分離派武装勢力の代表者が参加)。
- ◆9月19日, ミンスク議定書の実施のための覚書に署名。
- 停戦合意後, 分離派が更に攻勢を強め, 占領地域を拡大。戦闘が散発し, 死者が発生。
- ウクライナ側は, 東部の国境線を管理できない状況。露軍は引き続き一部はウクライナ領内に存在。
- ドネツク空港, デバリツェヴェ市等で戦闘は継続しており, ロシアからウクライナへの傭兵の流入も継続。
- 10月26日, ウクライナ最高会議選挙が実施されたが, ドネツク・ルハンスク両州の分離派占拠地域 (32選挙区のうち15選挙区) では投票は実施されず。他の東部地域では概ね平穏に投票が実施された模様。
- 一方, 分離派勢力は, 11月2日に東部2州の占領地域での「選挙」実施を宣言。



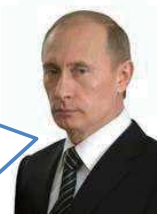
5

ロシアの安全保障観

- ◆強い防衛意識, 緩衝地帯の確保(旧ソ連圏, 特にウクライナの重要性)
- ◆NATOの東方拡大, 欧州へのミサイル防衛システム配備等, 欧米への不信感が蓄積。
- ◆EU, NATOと接するウクライナを影響下にとどめることがロシアにとって死活的に重要。



「セバストーポリにNATO艦隊が出現すれば, ロシア南部にとって脅威である。軍事機構が歴史的な領域において我がもの顔をするのに反対。」(3月18日, クリミア編入条約署名に際してのプーチン大統領の演説)



(参考)沿ドニエエストルにおける「凍結された紛争」
・1991年, モルドバ民族主義政策を進める政府に対し, ロシア軍の支援を受けロシア系住民が蜂起し, 武力衝突が発生。
・1992年, 停戦合意により武力衝突は終了。ロシア軍が駐留し, モルドバの実効的支配は及ばず。
→事実上の「分離独立」地域(凍結された紛争)

6

米国とEUの対露制裁



米国の対露制裁



EUの対露制裁

資産凍結
渡航禁止

➤対象数: 計**57名45社2団体**
(露軍需関連企業14社を含む。)

➤対象数: 計**141名25社9団体**
(うち22名は資産凍結のみ。)

セクター別

➤金融分野

・**資金調達制限**: 銀行6行及び軍需関連企業1社への満期30日超、**エネルギー企業4社**への満期90日超の融資等禁止。
・ロシア輸出信用供与やロシアの経済発展プロジェクトのための融資, 米輸出入銀行によるロシアに関する新規取引を停止。

➤エネルギー分野

・エネルギー企業5社への**深海・北極海の石油探査・生産**, シェール・プロジェクト分野での**物品・技術及びサービス**の提供禁止。

➤防衛分野

・防衛ハイテク物品サービスの対露輸出の免許発行停止。

➤金融分野

・**資金調達制限**: 銀行5行, 軍需関連企業3社, **エネルギー企業3社**への満期30日超の融資等禁止。
・**欧州投資銀行(EIB)**及び**欧州復興開発銀行(EBRD)**による**ロシアでの新規案件停止**。

➤エネルギー分野

・**エネルギー関連機器・技術の対露輸出の事前許可制導入**。
深海・北極海の石油探査・生産, シェール・プロジェクト向け**製品輸出の不承認, サービス提供の禁止**。

➤防衛分野

・武器及び関連物資の輸出入を禁止。軍用途又は軍をエンドユーザーとする汎用品・技術の輸出禁止。
軍民両用企業9社への汎用品輸出規制。

➤クリミア不承認政策

・**クリミア又はセバストーポリ原産品の対EU輸入禁止**。
当該輸入に係る金融・保険サービスの提供禁止。
・**クリミア及びセバストーポリにおける運輸・電気通信・エネルギー分野のインフラ・プロジェクト, 資源開発に関する新規投資の禁止**。その関連の主要機器の輸出, 金融・保険サービスの提供禁止。

ウクライナ情勢をめぐる我が国の措置

1. 3月18日

- (1) 査証緩和に関する協議を停止。
- (2) ①新投資協定, ②宇宙協定及び③危険な軍事活動の防止に関する協定の3件の新たな国際約束の締結交渉開始を凍結。

2. 4月29日

ウクライナの主権と領土の一体性の侵害に関与したと判断される計23名に対する入国査証の発給停止。

3. 7月28日

- (1) クリミア併合又はウクライナ東部の不安定化に直接関与していると判断される40個人及び2団体に対する資産の凍結等。
- (2) 欧州復興開発銀行(EBRD)のロシア向け新規案件に関するEUと協調した対応。
- (3) クリミア産品の輸入制限措置の導入。

→ 資産凍結等及びクリミア産品の輸入制限につき, 8月5日, 閣議了解。

4. 9月24日

- (1) ロシア向けの武器及び軍事用途の汎用品の輸出に係る審査手続の厳格化。
- (2) ロシアの特定銀行等の我が国における証券の発行等の禁止。

出所：露財務省

対露制裁等の影響に対する「基金」の活用

対露制裁、最近の石油価格下落との関係

- ✓ 8月22日、国民福祉基金による米、EUの制裁対象（資金調達制限）である**対外貿易銀行**（2140億ルーブル）と**ロシア農業銀行**（250億ルーブル）の**優先株購入支援**を決定。
- ✓ 9月末、**ロスネフチ**は国民福祉基金から1.5兆ルーブル、**ノヴァテク**は1000億ルーブルの政府支援を要請。
- ✓ 2015年は、国民福祉基金を用いたバム鉄道・シベリア鉄道改修、モスクワ環状道路建設等のプロジェクトを実施すること等により経済成長は可能。（9月18日、ウリュカエフ経済発展大臣）
- ✓ 2015年予算について、油価の低迷が続き（歳入が不足する）場合、準備基金から5000億ルーブルの補填の要請も。（10月13日、シリアノフ財務大臣）

参考

(1) 設立までの経緯

2004年1月 原油価格の変動に脆弱な財政構造からの脱却を目的に「**安定化基金**」を設立

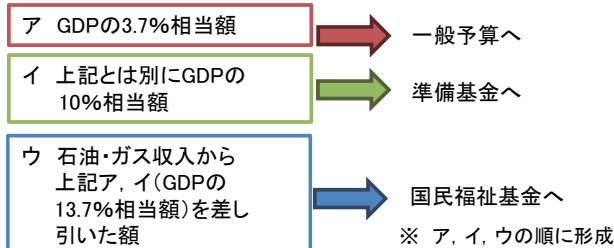
2008年2月 「安定化基金」を分割して、「**準備基金**」と「**国民福祉基金**」を設立

「準備基金」：原油価格下落に備え、必要に応じ、歳出補填、対外債務の期限前返済に使用

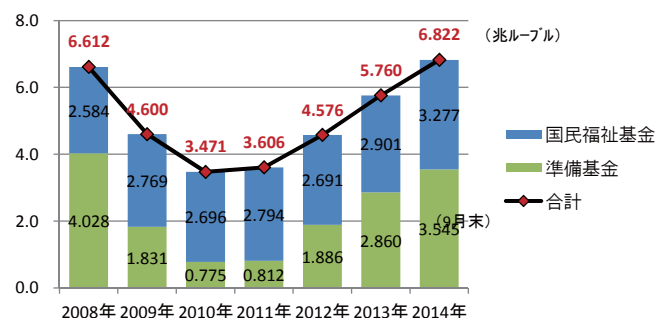
「国民福祉基金」：年金基金の赤字補填、年金の自主積立への補助に使用。**2013年11月より、国内インフラ整備プロジェクトへの投融資が可能に。**

(2) 両基金の積み立て方法

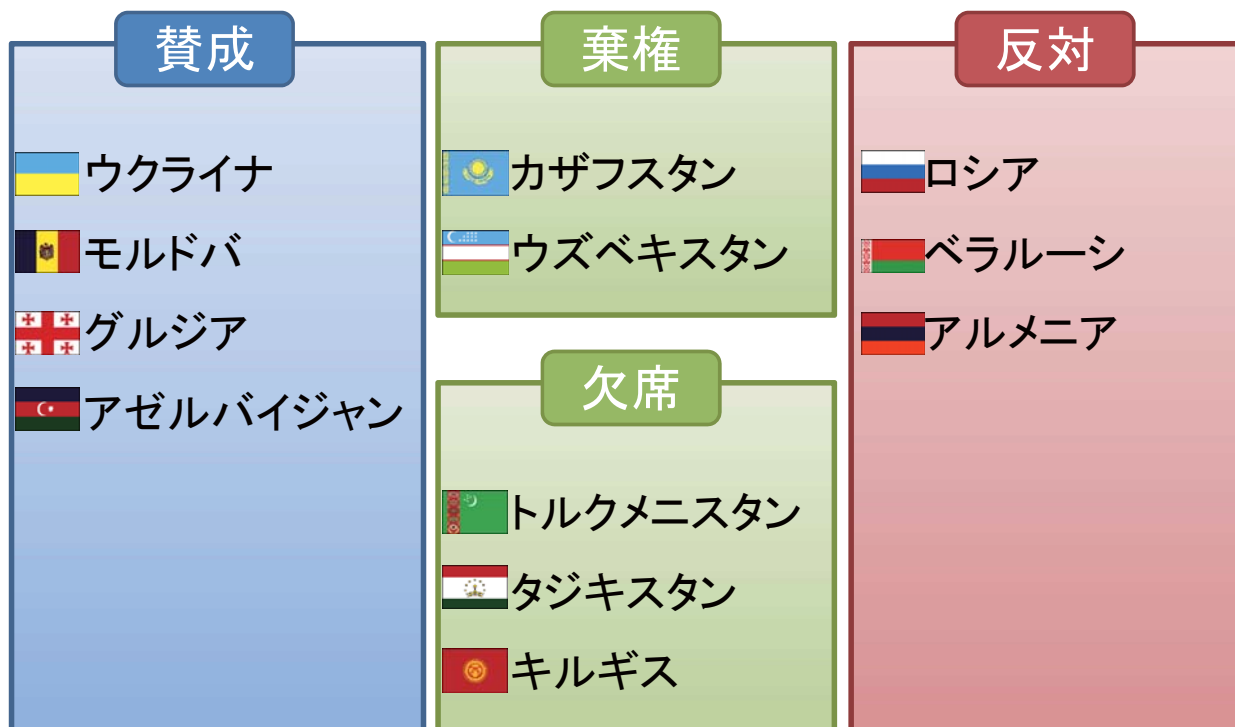
石油・ガス収入



(3) 両基金の残高推移(年末の残高)



国連総会決議「ウクライナの領土一体性」に対するNIS諸国の反応(2014年3月27日)



John F. Kennedy:

“AMERICAN UNIVERSITY COMMENCEMENT ADDRESS”

June 10, 1963

And second, let us reexamine our attitude towards the Soviet Union. It is discouraging to think that their leaders may actually believe what their propagandists write. It is discouraging to read a recent, authoritative Soviet text on military strategy and find, on page after page, wholly baseless and incredible claims, such as the allegation that American imperialist circles are preparing to unleash different types of war, that there is a very real threat of a preventive war being unleashed by American imperialists against the Soviet Union, and that the political aims – and I quote—“of the American imperialists are to enslave economically and politically the European and other capitalist countries and to achieve world domination by means of aggressive war.”

Truly, as it was written long ago: "The wicked flee when no man pursueth."

Yet it is sad to read these Soviet statements, to realize the extent of the gulf between us. But it is also a warning, a warning to the American people not to fall into the same trap as the Soviets, not to see only a distorted and desperate view of the other side, not to see conflict as inevitable, accommodation as impossible, and communication as nothing more than an exchange of threats.

No government or social system is so evil that its people must be considered as lacking in virtue. As Americans, we find communism profoundly repugnant as a negation of personal freedom and dignity. But we can still hail the Russian people for their many achievements in science and space, in economic and industrial growth, in culture, in acts of courage.

So let us not be blind to our differences, but let us also direct attention to our common interests and the means by which those differences can be resolved. And if we cannot end now our differences, at least we can help make the world safe for diversity. For in the final analysis, our most basic common link is that we all inhabit this small planet. We all breathe the same air. We all cherish our children's futures. And we are all mortal.

11

Thomas L. Friedman:

Who Had It Easier, Reagan or Obama?

The New York Times, Sept. 27, 2014

Most important, Reagan's chief rival, Gorbachev, won the Nobel Peace Prize in 1990 for doing something he never wanted to do: peacefully letting go of Eastern Europe. Obama's foes, like the Islamic State, will never win the Nobel Peace Prize. Reagan could comfortably challenge Gorbachev in Berlin to “tear down this wall” because on the other side of that wall was a *bad system* — Communism — that was suppressing a civilization in Eastern and Central Europe, and part of Russia, that was naturally and historically inclined toward democratic capitalism. And there were leaders there — like Lech Walesa, another Nobel Peace Prize winner — to lead the transition. We just needed to help remove the bad system and step aside.

In the Middle East, which has consumed so much of Obama's energy, the people tore down their walls — their systems — but underneath was not a civilization with the suppressed experience, habits and aspirations of democracy and free markets. Instead it was a toxic mix of Islamism, tribalism, sectarianism and an inchoate aspiration for democracy.

Reagan's leadership challenge was to bring down a wall and then reap the peace dividends by just letting nature take its course. Obama's challenge is that on the other side of the wall that the Arabs took down lies the world's biggest nation-building project, with a civilization that is traumatized, divided and often culturally hostile to Western values and institutions. It's an enormous job that only the locals can lead.

12

2 二国間関係

最近の日露関係の動き

2013年

2月21日	森元総理とプーチン大統領との会談（モスクワ）
4月10日	G8外相会合の際の日露外相会談（ロンドン）
4月29日	安倍総理の訪露（プーチン大統領との首脳会談）
6月17日	G8ロック・アーン・サミットの際の日露首脳会談
6月27日～30日	森元総理の訪露（ナルィシュキン国家院議長との会談）（モスクワ）
8月19日	日露次官級協議（モスクワ）
9月5日	G20サンクトペテルブルク・サミットの際の日露首脳会談
9月10日	安倍総理とプーチン大統領との電話会談
10月7日	バリAPECの際の日露首脳会談
11月1～2日	ラヴロフ外相・ショイグ国防相訪日、「2+2」開催

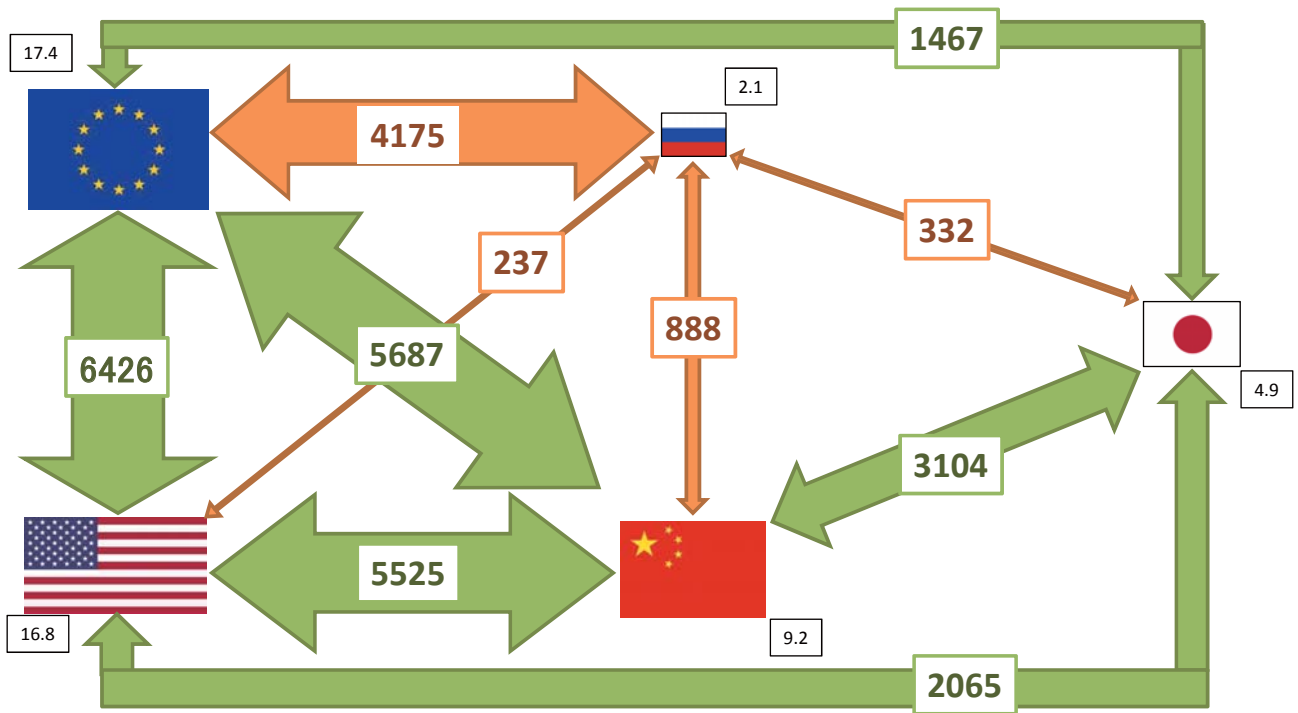
2014年

1月31日	日露次官級協議（東京）
2月1日	ミュンヘン安全保障会議の際の日露外相会談
2月7日～8日	安倍総理のソチ・オリンピック開会式出席及び日露首脳会談
6月2日～3日	ナルィシュキン国家院議長の訪日（東京）
9月10日	森元総理とプーチン大統領との会談（モスクワ）
9月21日	安倍総理とプーチン大統領との電話会談
10月7日	安倍総理とプーチン大統領との電話会談
10月17日	ASEM第10回首脳会合の際の日露首脳会談（ミラノ）

主要国間の貿易額—ロシアの貿易額を中心に

0.3 7.5 2013年の主要国間の貿易額: 億ドル(出所: UNTRADE)

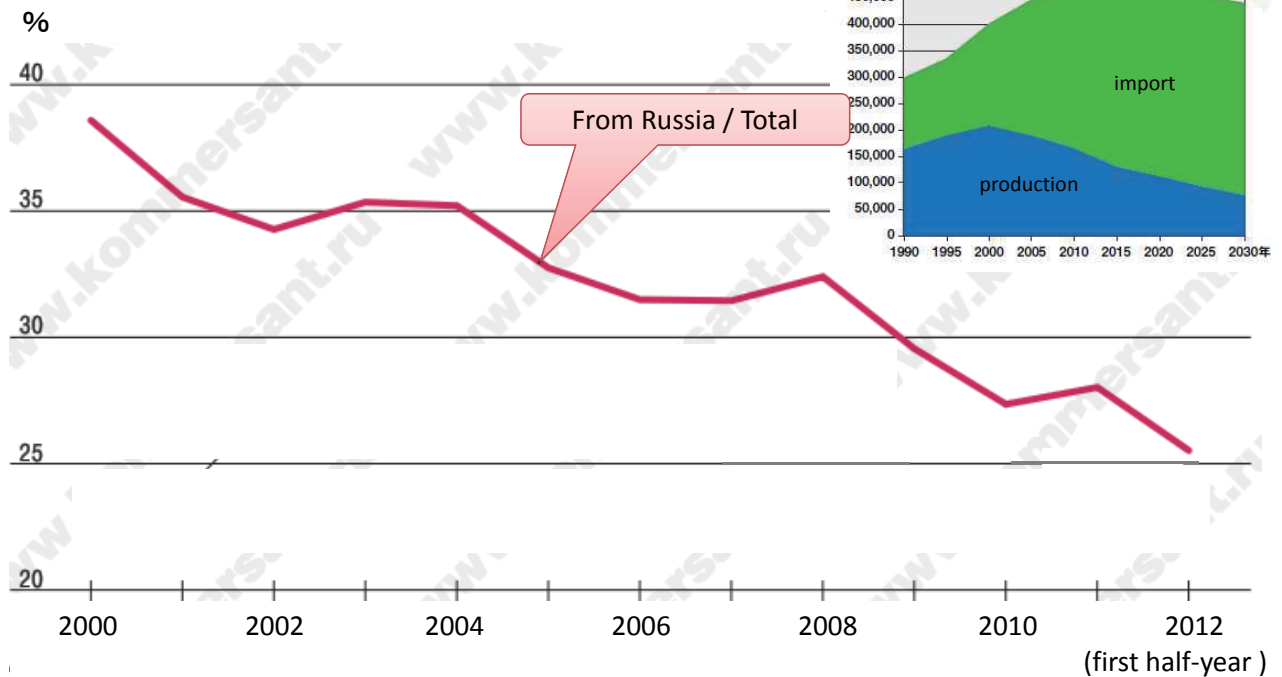
17.4 2013年の主要国のGDP: 兆ドル(出所: IMF)



Natural Gas Imported from Russia to Europe

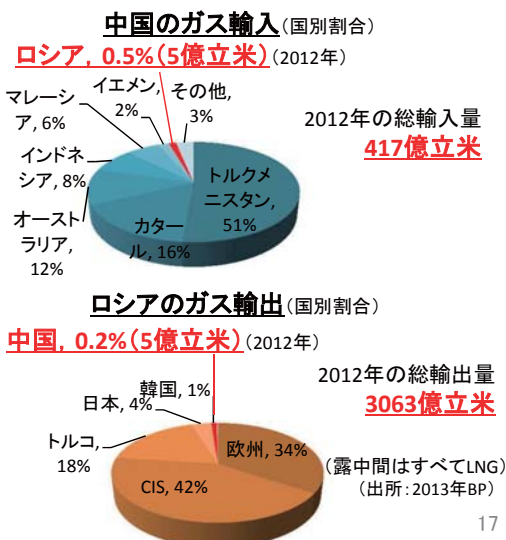
Sources: JOGMEC etc.

Amount of Natural Gas Production and Import Volume of Europe



露中ガス供給契約署名

- 5月21日、上海で、プーチン大統領と習近平中国国家主席の臨席の下、ガスプロム社と中国石油天然気集团公司（CNPC）が東方ルートを通じた中国へのパイプラインによるロシア産ガス供給契約に署名。（20日の露中首脳会談直後の共同声明及び成果文書には含まれず）
- 契約期間は30年、供給量は年間380億立米、契約額は4000億ドル。**
- ガス価格は非公表であるが、**350～400ドル/千立米**との報道あり。
- 供給開始時期**について、**4-6年後**とのノヴァク・エネルギー相発言はあるも、**具体的な時期は発表されず。**
- ロシア領内の採掘施設・輸送施設の建設への**投資規模は550億ドル**。プーチン大統領は中国側の投資額は最低でも200億ドルと発言。
- ノヴァク・エネルギー相は、中国側の前払い金は250億ドルに達する可能性がある旨発言。



日露・中露の貿易額の推移

